

第1回 学校運営協議会

6月2日(月)に開催されました。

下記の通り、群馬県教育委員会より委嘱された委員12名のなかから、会長1名、副会長3名を選出し、以下の組織構成となりました。また、今年度から小学校との連携の必要性を踏まえ、近隣小学校の校長が委員に加りました。

会 長：大学教授
副会長：民間企業総務部長・商工会議所専務理事・商工会会長
委 員：地元区長・近隣中学校校長2名・近隣小学校校長1名・役場係長・同窓会長
PTA会長・元県立高等学校校長

校長、教頭、事務長に加え、県教育委員会から2名がオブザーバーとして出席しました。また、在職教員も5名参加しました。

主な内容は下記のとおりです。

- 1 学校運営基本方針承認
校長より、以下の教育方針(詳細は省略)が示され、承認されました。

1 教育目標

- (1) 真理を求め、自ら考え行動する力を養う。
- (2) 勤労と奉仕を尊び、自立する精神を涵養する。
- (3) スポーツ、文化を愛し明るくたくましい心身を育てる。

2 教育方針

- (1) 目指す学校像
「地域と産業を担う人材を育成する」
- (2) 学校運営方針
① 主体性の育成 ② 社会性の形成 ③ 人間性の涵養 ④ キャリア教育の充実
⑤ 地域社会との協力連携 ⑥ 学校運営協議会との協力連携

◇今年度は、特に⑥を推進し、地域から信頼され愛される学校としたい。地元への就職が少ないことを改善したい。将来、地域のリーダーになる生徒を育てたい。

2 学校概要説明

教務・生徒指導・進路指導・商業科・工業科・地域連携活動及び学校評価一覧表等に関する説明が各担当者からありました。

学校評価一覧表以外の説明概要は別ファイル「学校概要説明」でご確認ください。

3 令和6年度の総括

(1) 成 果

「地域と産業を担う人材を育成する」という目指す学校像をもとに地域連携に力を入れてきた。特に、明和町と館林市との協力連携や「課題研究」を通じた地域連携を行なっている。連携活動を通じて、本校の取り組みについて情報発信することができた。また、入学志願者確保のため、中学校及び小学校との連携にも取り組んでいる。

(2) 課 題

工業科・商業科それぞれの「強み」を再確認することで、学科横断型の取り組みが生まれているという良い面もあるが、「保護者や地域の意識」「地域への効果」の面で改善の余地も多い。今年度の課題として、さらなる信頼の構築を深めていく必要がある。



4 意見交換 ※意見交換前に、委員と教員の情報交換の時間を多めに取りました。

(1) テーマ

【大テーマ】

生涯にわたって地域社会に主体的に参画できる生徒をどのように育てるか

【小テーマ】

- ① 生徒が地域社会の一員として、地域社会が抱える課題や願いを自分事として認識するには、どのような教育活動を実践すればよいか
- ② 生徒が本校卒業後、地域社会に主体的に参画するために、どのような資質や能力を育むべきか、また、どのような経験を積ませることが必要か

(2) 意見・提案等（抜粋記載）

- ・小中では、教育課程に合った地域活動を行い地域貢献をしており、それが学校と地域のwin-winの関係になっている。地域活動参加を自主的に考えることで、自分の責任として活動することができる。
- ・地域活動に参加し、自分の得意な分野を活かす。
- ・世代間交流（異年齢交流）において高校生の活動の場があるとよい。
- ・地域のすばらしさを知る。そのためにも、産業など、現場に触れ、体験から学ぶ。
- ・生徒はデジタル面での知識・技術があるので、デジタル化への対応等に期待したい。
- ・授業だけでなく、企業で体験する。その際、企業で学びたいと思うことが必要である。
- ・地元に戻れる人材を育成する。
- ・ベンチャー支援を行う。
- ・群馬イノベーションアワード（上毛新聞社主催、田中仁財団共催）に参加する。
- ・商工会でスペース活用をする。
- ・生徒の進路には、親の理解が必要なので、親に対するアプローチをする。
- ・「気づき、考え、行動する」ということをしっかりと意識する。
- ・地域を持ち上げるためにも、卒業生のお話を聞く機会を増やす。



5 キャッチフレーズ・スローガン

昨年度、CSマイスターの朝倉氏より「生徒自身が育み伸ばす資質・能力を考える必要がある」という助言をいただきました。それを受け、資質・能力という内容ではなく、生徒が生徒自身に呼びかけやすいという観点から、生徒会役員に「キャッチフレーズ」と「スローガン」を考えてもらいました。

○キャッチフレーズ：「地域と共に未来を育む 館林商工」

現時点で、生徒たちが地域のことを考え、地域連携を実践しているという思いがそこにはある。

○スローガン：「未来のために協力関係の向上を目指そう」

生徒と生徒の協力関係・商業科と工業科の協力関係・学校と地域の住民の方、行政及び企業との協力関係が考えられる。「向上」という言葉に、現時点でも協力関係はあるが、「さらによくする」「さらによくしたい」という生徒の思いが込められている。

6 群馬県教育委員会より指導・助言（抜粋記載）

- ・数多くの意見を、いかに取捨選択して実践するかが重要である。
- ・地域連携を教育課程とどのように位置付けるかを考える。
- ・地域で活躍する卒業生の存在をどのように活用するか考える。
- ・協議会を通じて、「この学校をよくしよう」という気持ちが伝わってきた。
- ・協議会での提案を「次に活かす」教員がいることには、意義があった。
- ・「やりたいと思っても、つてがない」という状況に対して、今後、どのような方策が可能か、具体的な方策を検討してほしい。